

令和5年7月26日



# 長崎県内経済情勢報告

令和5年7月

財務省福岡財務支局 長崎財務事務所

〔問い合わせ先〕

財務省 福岡財務支局  
長崎財務事務所 財務課


TEL 095-827-7095

FAX 095-811-7030

## 1. 総論

### 【総括判断】

## 「県内経済は、緩やかに回復しつつある」







項目	前回（5年4月判断）	今回（5年7月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	緩やかに回復しつつある	

（注）5年7月判断は、前回4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

### （判断の要点）

個人消費は、回復しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

### 【各項目の判断】

項目	前回（5年4月判断）	今回（5年7月判断）	前回比較
個人消費	持ち直している	回復しつつある	
生産活動	持ち直しつつある	持ち直しつつある	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	
設備投資	4年度は増加見込み	5年度は増加見込み	
企業収益	4年度は増益見込み	5年度は増益見込み	
住宅建設	前年を上回っている	前年を上回っている	

### 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、回復していくことが期待される。ただし、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「回復しつつある」

百貨店・スーパー販売額は、外出機会の増加により衣料品や化粧品が好調であるほか、商品単価の上昇などから、前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売額は、観光地やオフィス街で来店客が増加するなど、前年を上回っている。

家電大型専門店販売額、ホームセンター販売額は、前年を下回っているものの、ドラッグストア販売額は、前年を上回っている。

乗用車新車登録・届出台数は、国内向けの生産増加による納期の改善により、前年を上回っている。

観光は、主要観光施設の入場者数・主要地区の宿泊者数をみると、感染症の影響緩和等により、前年を上回っている。

(主なヒアリング結果)

- 感染症の5類移行もあり、催事を中心に来店客が増加しているほか、衣料品や化粧品の売上も好調である。今後は売上、来店客ともにコロナ禍前の水準への回復を期待している。(百貨店・スーパー)
- 度重なる商品の値上げにより売上は前年を上回っているものの、来店客や買い上げ点数が減少している。7月以降も各種商品の値上げが控えており、来店客や買い上げ点数の更なる減少を懸念している。(百貨店・スーパー)
- 感染症の5類移行によりファミリー層を中心に来店客が増加しており、衣料品店や飲食店が好調であることなどから、売上はコロナ禍前の水準まで回復している。今後は飲食店を中心に更なる売上の増加を期待している。(複合商業施設)
- クルーズ船の寄港や感染症の5類移行により、観光地やオフィス街の店舗で来店客は増加しており売上は堅調に推移している。(コンビニ)
- 観光需要の増加により、ホテルの稼働率、客室単価ともにコロナ禍前の水準を上回っており、売上は対前年比で大幅に増加している。7月以降の予約も好調であり、宿泊客はコロナ禍前の水準を上回って推移する見込み。(宿泊)
- 修学旅行者が好調を維持しているほか、感染症の5類移行により業界団体や職場関係者等の団体客が増加したことなどから、売上はコロナ禍前の水準まで回復している。7月の売上も堅調に推移する見通し。(宿泊)
- 個人客や修学旅行者を中心に来園者は増加しており、業況は好調を維持している。感染症の5類移行により、来園者の大半がマスクを外しており、コロナ禍前の姿に戻っている。(娯楽)

### ■ 生産活動 「持ち直しつつある」

生産活動を主要業種でみると、電子部品・デバイスは、一部に弱い動きがみられるものの、高水準で推移している。はん用・生産用機械は、下げ止まりつつある。造船は、受注残高は増加傾向にあり、一定の操業を維持している。

- 半導体需要の減速により、家電向けなど一部の製品で弱さがみられるものの、産業機器向けでは好調を維持しており、フル稼働に近い水準での生産が続いている。(電子部品・デバイス)
- 受注環境は厳しい状況が続いているものの、今年度の生産高は前年度比漸増する見通し。(はん用・生産用機械)
- 新造船価が高水準にあることなどから、船主が発注を控える動きがみられるものの、受注隻数は一定の水準を維持している。鋼材・資機材の価格高騰が継続しており、利益を圧迫している。(造船)

### ■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

製造業や小売業等で求人が増加しており、有効求人倍率は堅調に推移しているなど、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

- 観光需要の増加により、人員不足に拍車がかかっている状況が継続している。中途採用の求人を出しているが、応募がない状況が続いており、人員の不足分は残業でカバーしている。(宿泊)
- 新工場の本格稼働に向けて人手が不足しているため、追加採用を引き続き実施していく。(造船)
- 新規求人は、観光需要の回復により関連する食料品製造業や小売業で求人が増加しているほか、造船業でも求人は増加基調にあるなど、高水準を維持している。(公的機関)

■ 設備投資 「5年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年4-6月期

5年度の設備投資額(ソフトウェア投資額を含む、土地購入額を除く)は、製造業は前年比33.0%の増加見込み、非製造業は同133.6%の増加見込みとなっており、全産業では同53.0%の増加見込みとなっている。

■ 企業収益 「5年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年4-6月期

5年度の経常利益(「電気・ガス・水道業」及び「金融業、保険業」を除く)は、製造業は前年比20.7%の増益見込み、非製造業は同8.8%の減益見込みとなっており、全産業では同11.9%の増益見込みとなっている。

■ 住宅建設 「前年を上回っている」

新設住宅着工戸数でみると、前年を上回っている。

(その他項目)

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査(5年4-6月期)の景況判断BSIでみると、5年4-6月期は「上昇」超に転じている。先行きについては、5年7-9月期は引き続き「上昇」超の見通しとなっている。
- 公共事業を公共工事前払金保証請負金額(5年度累計)でみると、前年度を上回っている。